



# 謹賀新年

2007年度  
(社)鳥取青年会議所  
広報誌 1月号

# 因幡

INNOVA [ina:va]  
変革

鳥取青年会議所 検索  
URL <http://torijc.main.jp>  
E-mail [torijc@hal.ne.jp](mailto:torijc@hal.ne.jp)



写真:鳥取砂丘 因幡の者なら誰しも訪れたことのある鳥取砂丘。そこは四季を通じて様々な表情を見せてくれる。あるときは豪快に、あるときは穏やかに。そして見るものに言葉が失わせるその雄大さで人々を魅了する。この自然からの大きな贈り物は「因幡の母」と呼ぶにふさわしい。

新年明けましておめでとうございます。報道では景気が回復基調にあると言われていますが、この地方経済においてはまだまだ低空飛行で、いつ上向きに変わるのか見えない状態です。そんな中に置いて我々、鳥取青年会議所は、青年経済人の集団として自分たちの住むまちこの因幡を、今以上に『明るい豊かなまち』へと改革していかねければなりません。

本年の基本理念は、  
将来への希望の持てるまち  
その実現の為に我々は能動者として  
『まちづくり』『ひとづくり』活動を行い  
地域に愛される青年会議所を目指す  
であります。

まずは、『まちづくり』『ひとづくり』を实践するためのスキル(技術)を身に付ける為に、自己啓発、自己開発を行い、自分たちを磨いていきたいと思います。持っています。日頃よりスキル(技術)や知識はいろいろ持っても荷物にはならないし、どこでも、どんな場面でも使えるものと思っております。地域や社会の為に書きまますと堅い話となりますから、自分自身の為または家族の為でもかまいません。会員と共に修練をしまいたいと考えております。

最後になりますが、私たちの住むこの社会は過去より現在に至るまで、様々な問題がございました。そしてこれから先、未来においても想定できうる問題もたくさんあります。そんな現状においても将来への希望と夢は持たなければなりませんし、持ち続けなければなりません。明るい豊かなまちを目指し、それを現実のものとする為に、我々メンバーは先導的立場の能動者として、活動の環を広げていき地域に認められ、家族を愛するように地域を愛し、地域の皆様に愛される青年会議所を目指していきたいと思っております。

昨年同様、本年も社団法人鳥取青年会議所を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

年頭にあたつて

理事長 安陪 幸伸

新年明けましておめでとうございます。

2007年度 日本JCスローガン 「日本の力」発信! 理想国家日本の創造に向けて!

2007年度 鳥取JCスローガン

# 目標を見定め「我」実行せん!

## 新年祈願

元旦恒例の行事としまして、四役が参加して新年祈願がとり行われました。(於 聖神社)

因幡のますますの発展と、世界平和を祈願して参りました。

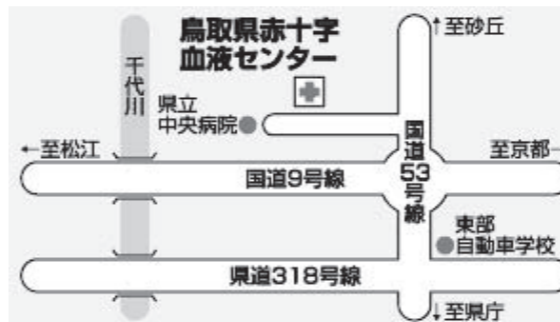


## お知らせ

・献血ご協力をお願い

医療機関で使用する血液の量が年間を通して一定であるのに対し、献血のご協力には季節的な変動があり、特に寒い時期は、風邪などで薬を服用している人が多く、血液が不足しがちです。身近な社会参加の一步として、献血をしてみませんか。皆さんの温かいご協力をお願いします。

お問合せ先  
鳥取県赤十字血液センター  
鳥取市江津370-1 (0857)24-8101  
受付:月曜日～土曜日9:00～17:00  
(成分献血は16:00まで)  
<http://www.tottori.bc.jrc.or.jp/index.htm>



## ■ まちづくりの仲間紹介 ■

毎月鳥取県東部で活躍されるまちづくり団体をご紹介します。

今月は4団体をご紹介します。(社)鳥取青年会議所を含め鳥取県東部青年団体連絡協議会(通称:五青協)として、各々まちづくりに取り組んでおられます。

- ・鳥取商工会議所青年部  
鳥取市本町3-102・2F TEL 0857-22-6666  
<http://www.t-yeg.jp/>
- ・鳥取県東部中小企業青年中央会  
鳥取市富安1-96 TEL 0857-26-6671  
<http://www.tsc21.gr.jp/>
- ・鳥取法人会青年部会  
鳥取市本町3-102・1F TEL 0857-27-1604  
<http://www.toriho.or.jp/s/>
- ・鳥取県東部商工会青年部連合会  
鳥取市湖山町東4-100 TEL 0857-31-5555  
<http://www.tottori-impulse.jp/>

## ○ 事業報告 ○

・新年祝賀会開催

1月6日(土)ホテルニューオータニ鳥取(鶴の間)にて新年祝賀会を開催いたしました。藤井喜臣鳥取県副知事をはじめ鳥取県東部5市町長、外部褒賞者、また多くのOBなど約150名にご出席いただき、私たちの1年間の意気込みを語るとともに、2007年度の活動方針の説明、理事・役員を紹介を行いました。安陪理事長は「家族を愛するのと同じように因幡を愛しまちづくりに取り組みます。」と抱負を述べ、来賓の藤井副知事からは「若さに経験を積まれ、鳥取をリードしていかれることを期待します。」とエールをいただきました。



安陪理事長



藤井鳥取県副知事

# 2007年度(社)鳥取青年会議所の概要を「」紹介します。

## ●基本理念

将来への希望の持てるまち  
その実現の為に  
我々は能動者として  
『まちづくり』『ひとづくり』  
活動を行い  
地域に愛される青年会議所を目指す

## ●スローガン 「目標を見定め 『我』実行せん」

## ●基本方針

- 1、公益法人として青年会議所活動を行う
- 2、会員の結束と資質の向上を図る
- 3、活動を通して環境へのやさしさを視野に入れる

## 委員会活動方針

### 【特別委員会】

- ・山根康徳委員長  
担当：西垣豪副理事長
- ・石破秀文委員長  
担当：山崎康司専務理事

### 【会員拡大特別委員会】

- ・山崎康司専務理事  
担当：山崎康司専務理事
- ・副委員長連絡会議も兼ね、組織の横の繋がりを密にする。

### 【総務委員会】

- ・鳥羽明彦委員長  
担当：山崎康司専務理事
- ・鳥羽明彦委員長  
担当：山崎康司専務理事
- ・山崎康司専務理事  
担当：山崎康司専務理事

### 【広報委員会】

- ・妹尾祐司委員長  
担当：山下浩史副理事長

### 【会員交流委員会】

- ・田淵裕章委員長  
担当：水野由久副理事長
- ・元気のある例会等の運営を通してメンバーの交流を図り、組織に活力を与える。
- ・新卒祝賀会の運営。
- ・卒業式の運営。
- ・会員の家族や会員の親睦を図れ、活力の湧く活動を行う。



妹尾／私たちが青年会議所としても広域連携というテーマは永きにわたって取り組んでいます。昨年には関西在住の方に因幡の景観を満喫していただける事業を行いました。また、鳥取ブロック協議会という県全体での取り組みも行ってあります。県内外の様々な団体などとの協力関係を築いて事業も行ってまいりますので、我々も地域のお役に立てるように頑張っているところでございます。

妹尾／今でこそ環境活動は頻繁に行われておりますが、三十数年前の当時はまさに先駆けの取り組みだったのでね。

清水／行政を含めまだ環境に目を向ける人が少なかった当時、市民から新鮮なアクションだと評価をいただいたと思っております。やはり若者が結束して一つの物事に立ち向かうエネルギーはすばらしいものであり、青年としての行動力のある証ではないでしょうか。

妹尾／ただの美化活動だけではなく多くの市民の方々、次代を担う子どもたちも一緒になって活動されたという事がすばらしいと思います。また、広域連携など様々な要素が取り入れられた今の我々の取り組みの原点があると感じました。

清水／青年会議所ではもう一つ大きな事業として福祉問題にも取り組ましました。その中で献血運動を1972年から行いました。売血という時代から変わってまだ献血に関心が薄い時代に、メンバーの事業所に献血車をまわそうという事が発端で、鳥取青年会議所がリーダーシップをとって行政に相談を学校、団体、企業が集まって「鳥取献血推進協議会」を立ち上げました。今でも当社に年二回献血車が来ます。私個人としても

### 【会員開発委員会】

- ・八木谷昭一委員長  
担当：有本由紀子副理事長
- ・研修会員研修会と全体研修を行い、会員の資質の向上を図る。
- ・研修会員研修会、青年会議所活動の知識を学び、まちづくりの志を高められる。人材育成を行う。
- ・3分間スピーチの運営。
- ・リーダーシップを養える全体研修会の開催。

### 【青少年育成委員会】

- ・野田祐二委員長  
担当：水野由久副理事長
- ・心と体を鍛え、日本の将来に有望な青少年の育成を行う。
- ・困難な事にも勇気を持ってチャレンジしやり遂げる心の育成。
- ・人や生き物に対し、思いやりを持って心の育成。

### 【福祉委員会】

- ・保木本秀行委員長  
担当：有本由紀子副理事長
- ・人の優しさがあふれ、将来に希望のもてるまちを創る。
- ・助け合いの心を醸成し、誰もが将来に希望の持てるまちづくり活動を行う。
- ・若草学園との施設交流の実施。
- ・献血事業。

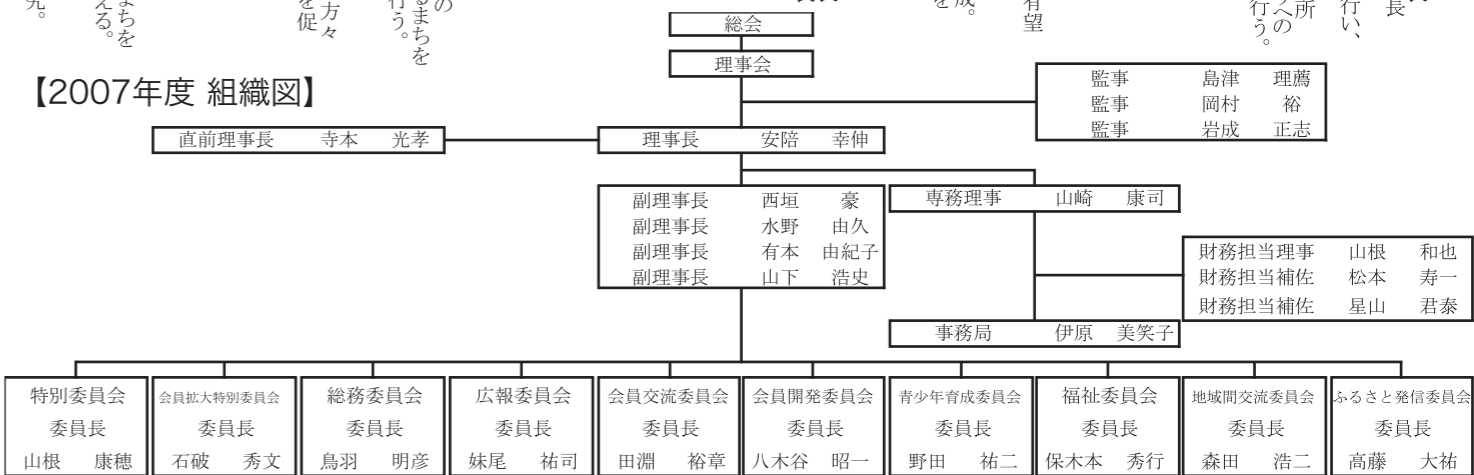
### 【地域間交流委員会】

- ・森田浩二委員長  
担当：山下浩史副理事長
- ・鳥取自動車道(姫路鳥取線)の有効活用を考え、賑わいのあるまちを創造し交流人口の増大活動を行う。
- ・鳥取自動車道(姫路鳥取線)の活用法の研究。
- ・道(ヘイロード)を利用して他地域の方々と交流を図り、まちの活性化を促進する。

### 【ふるさと発信委員会】

- ・高藤大祐委員長  
担当：西垣豪副理事長
- ・地域の人達と共に、自分達のまちを再認識し愛着心を育み広く伝える。
- ・ふるさと因幡を、地域の人達と共に広く伝える。
- ・地域の歴史や文化の調査・研究。

## 【2007年度 組織図】



## ●因幡この人に聴く!

このコーナーでは毎月因幡地域においてその言動が注目されている方々にお話を伺います。

今月は現在鳥取商工会議所副会頭、そして1974年度社鳥取青年会議所理事長でいらっしゃいます「株」清水代表取締役社長 清水昭允氏にお話を伺いました。(聞き手 妹尾広報委員長)

妹尾／あけましておめでとうございませう。まずは現在商工会議所副会頭として、重点的に力を入れておられる事を教えていただけますか？

清水／今年一番の重点事項は、昭和34年以来約50年ぶりとなる鳥取商工会議所の会館の立て替えです。年初早々に設計に入り春先には工事に入る予定となっております。

第二には2009年に開通する鳥取自動車道(姫路鳥取線)に対するイベントがいろいろあります。竹内市長にもいろいろ動いていただいておりますが、行政と産業界と因幡市民が一緒になって開通に向けてやっつけようという事です。

第三にはやっぱり鳥取の産業界に活発さがもたらす物足りないう事、それを鳥取自動車道が開通すると観光客がぐっと多くなると思われませんか。観光の受け入れ体制をどうしていくか。商工会議所ではそれぞれテーマ別にプロジェクトチームを作ってその問題に取り組んでおります。

妹尾／商工会館の建て替えは中心市街地活性化という観点からの取り組みでもありと伺っておりますが。

清水／新しい産業界ではワンストップ化に向け、経済産業関係で情報の発信発信ができて手続きも可能な地域の施設としてやっつけようという願いがあります。付近にはわらべ館・久松山もあります。鳥取市の中でも集客力を持った地域として本町界隈がぎややかになるようにとの狙いもあります。

また、自分が理事長を務めたときにはよく新聞からテーマを探していました。いろいろな問題点や課題が記事として新聞には出ています。そこに市民のニーズがあると思います。青年会議所には市民ニーズに沿った内容の事業をもっと積極的に取り組んで欲しいと思います。インフラ整備・教育・福祉・文化・観光・社会保障・労働環境などすべての分野で因幡地域の問題点をしっかりと把握し、その課題に若いフレッシュなエネルギーで取り組むことが青年としてやるべき事ではないでしょうか。青年会議所には毎年各委員会でもっと具体的積極的に市民にアピールしながらアプローチして欲しいと思います。

再来年に社鳥取青年会議所は創立50周年という大きな節目を迎えます。この半世紀という歴史の中で約280人のOBがおりますので、シニアクラブとしてバックアップの体制をとってきたいと考えます。後輩にまだまだ伝えたい事もありますが、もともと各地域に豊富な人脈を築いているOBをどんどん活用して事業を盛り上げていくってこれらと思います。期待しています。

妹尾／今日は貴重なお話をたくさんいただきました。これからも引き続き「指導」の鞭を、ほど、よろしくお願致します。

※産業会館：現在仮称



清水／鳥取市としてどれも重要なテーマですので、商工会議所としていろいろな部会で相乗効果が出るようにしなければならぬと思います。さらに鳥取自動車道沿線の自治体、鳥取市からさらに西の方へも連携して広域でリンクした動きをしていかなければならないと考えています。

妹尾／私たちが青年会議所としても広域連携というテーマは永きにわたって取り組んでいます。昨年には関西在住の方に因幡の景観を満喫していただける事業を行いました。また、鳥取ブロック協議会という県全体での取り組みも行ってあります。県内外の様々な団体などとの協力関係を築いて事業も行ってまいりますので、我々も地域のお役に立てるように頑張っているところでございます。

清水／その頃を振り返ってみますと、当時はまだ鳥取大火の後遺症が残っていたような時期ではなかったかと思えます。袋川も被災者のパニックなどが徐々に取り払われつつあったような時期で、ゴミ捨て場のような汚れた川になっていました。青年会議所として袋川の環境問題について何をすれば市民の目を袋川に向けられるかと考え、鯉の放流を発表しましたが、「生息できるかどうかかわらない川に鯉を放流するなんて」と市民の意見をいただきました。それで専門家の先生にアドバイザーになっていただき、プロジェクトチームで試した小さな生け簀を五ヶ所に作りまして、鯉の生息や水質について学習しました。また、新袋川との関係で袋川のの流れが悪いの問題がわかりましたので、建設省にお願いしてエアーバックで水の流れを変える工事を行いました。平行して川や土手の清掃なども行い徐々に水質が改善してきました。そこで15周年の記念事業の中で市民が袋川に関心を持つられる事を願い、花火を合図に幼稚園、小学校の生徒さんに三万匹の鯉を放流してもらいました。これがすこく反響がありまして、「今うちの近くを鯉が泳いでますよ」などの連絡が青年会議所の事務局にあり、対応に大忙しでうれい悲鳴を挙げたのを覚えております。



妹尾／今でこそ環境活動は頻繁に行われておりますが、三十数年前の当時はまさに先駆けの取り組みだったのでね。

清水／行政を含めまだ環境に目を向ける人が少なかった当時、市民から新鮮なアクションだと評価をいただいたと思っております。やはり若者が結束して一つの物事に立ち向かうエネルギーはすばらしいものであり、青年としての行動力のある証ではないでしょうか。

妹尾／ただの美化活動だけではなく多くの市民の方々、次代を担う子どもたちも一緒になって活動されたという事がすばらしいと思います。また、広域連携など様々な要素が取り入れられた今の我々の取り組みの原点があると感じました。

清水／青年会議所ではもう一つ大きな事業として福祉問題にも取り組ましました。その中で献血運動を1972年から行いました。売血という時代から変わってまだ献血に関心が薄い時代に、メンバーの事業所に献血車をまわそうという事が発端で、鳥取青年会議所がリーダーシップをとって行政に相談を学校、団体、企業が集まって「鳥取献血推進協議会」を立ち上げました。今でも当社に年二回献血車が来ます。私個人としても

清水／海外から日本をみるとすこく日本の事を見る事ができるので若い人にはもって海外に出て欲しいと思います。異文化圏の方々との交流する事がとても大切だと思えます。